



算数

※ () 内は全国の正答率

力が付いている問題

◆示された除法の式の意味を理解している

③ (4) 正答率 48.8% (47.0%) 1800 ÷ 6 は、何mの代金を求めている式といえるのかを選ぶ問題

◆図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成する

① (2) 正答率 61.8% (60.3%) 示された2つの合同な台形からつくり出せる形をすべて選ぶ問題

課題が見られた問題

◆目的に応じて必要な情報を読み取る

② (2) 正答率 75.4% (78.6%) 棒グラフから何倍にあたるか読み取って書く問題

◆二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取って判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する

② (3) 正答率 48.3% (52.1%) 一人当たりの量についてわかることを選び、わけを書く問題

◆示された計算の仕方を解釈し、成り立つ性質について記述する

③ (2) 正答率 28.6% (31.1%) 減法の計算の仕方をもとにして、除法の計算の仕方について説明する問題

* 式やグラフなどから、目的に応じて必要な情報を読み取る力、また、それらを関連付けて判断する力に課題が見られました。

* 「量と測定」「数量関係」の正答率が低く、性質や考え方を表現する力に課題が見られました。

* 「算数が好き」「算数がよく分かる」と回答した児童の割合が全国を大きく下回っています。



算数に関する児童質問紙の結果に注目してみましょう

	県	全国	差
○算数の問題について、わけや求め方を書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	81.8%	80.7%	+1.1
△算数の勉強は好きだ	63.1%	68.6%	-5.5
△算数の授業内容はよく分かる	79.2%	83.5%	-4.3
△算数で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	73.8%	76.5%	-2.7

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましょう

◆目的に応じて、資料の特徴や傾向、必要な情報を読み取り、それらを関連付けて判断することに課題がありました。

⇒事柄を関連付けながら、思考を広げたり深めたりする場面の設定が求められる。



<ポイント>資料の特徴や傾向を読み取る際には、目的に応じて差を求めたり何倍かを求めたりする等、数量の大きさの関係を読み取ることができるようになることが大切です。一つの資料からは判断することができない事柄については、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断することができるようになりましょう。

⇒ 平成30年度【小学校】授業アイデア例P11~14

◆成り立つ性質や考え方を根拠と合わせて表現することに課題がありました。

⇒既習事項を基に、解決方法や結果の見通しをもち、発展的・統一的に捉えていく思考過程の充実が求められる。

<ポイント>算数用語を使って説明できるように、具体物や図や式、言葉に関連させ、実感を伴って理解できるようにしましょう。既習事項をもとに、見つけた性質やきまりが他の場合でも成り立つかといった問いをもち、一般的に表現しようとする態度を育てることが大切です。

⇒ 平成31年度【小学校】授業アイデア例P11~12

◆算数に対して苦手意識をもつ児童や算数を学ぶ楽しさを実感できない児童が多くなっています。

⇒児童の問いを大切にされた授業展開の充実が求められる。



<ポイント>わからないところを問い直したり、学習したことを発展させて新たな問題を見いだそうとしたりするなど、児童が主体的に取り組むことができる授業展開を心掛けましょう。

⇒ 平成28年度【小学校】授業アイデア例P9~10

全国学力・学習状況調査問題は、解答類型による結果分析も行われていますので、学習指導の改善・充実に活用しましょう。児童の反応を予想して手立てを考えたり、発展的に考える仕掛けを取り入れたりしながら、児童が「わかった」「できた」を実感できる授業づくりに取り組む必要があります。鳥取県の児童が「算数の授業内容がよくわかる」「算数の勉強が楽しい」と思えるような授業づくりを進めましょう。



<具体的な授業改善例について> *以下の資料を参考にしてください。※学校教育支援サイトにもデータを掲載しています。

① 全国学力・学習状況調査報告書 ②授業アイデア例 (国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/index.html>)